

## 令和 8 年 5 月定例記者会見 市長挨拶及び質疑応答

### ▽日時

令和 8 年 5 月 27 日 午前 11 時から

### ▽会場

稲敷市役所 4 階 全員協議会室

### ▽参加記者

茨城新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、時事通信、共同通信  
茨城放送

### ▽出席者（市）

市長、副市長、教育長

市長公室長、総務部長、教育部長、危機管理監、土木管理部長  
市民生活部長、地域振興部長、保健福祉部長、市長公室企画監  
総務課長、秘書広聴課長、政策企画課長、歴史民俗資料館長  
歴史民俗資料館長補佐、危機管理課長補佐、危機管理課係長  
政策企画課長補佐

### ■資料 別紙のとおり

### ■市長あいさつ

改めまして、皆さんこんにちは。

本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。また、記者の皆様方には、日頃より、本市の情報発信等にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は、令和 8 年度最初の定例記者会見でございます。4 月 1 日の定期人事異動により、新たな体制での市政運営がスタートいたしました。記者の皆様におかれましても、新たにご担当になられた方もいらっしゃると思います。引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

さて、本年 4 月、市内に工場を有する世界的プレミアムヘルメットメーカーである株式会社 SHOEI が建設した「SHOEI HELMET PARK」がオープンいたしました。国内外で非常に高い評価を受ける企業の新たな施設の開設により、これまでとは異なる層の来訪者として、バイク愛好家を中心とした多くの方々にお越しいただいており、新たな交流人口の創出につながっております。市内飲食店等への立ち寄りも見られるなど、地域経済への波及効果も期待しているところでございます。

また、本市では、今年度から、国の地域未来交付金の採択を受け、3 か年

にわたりシティプロモーションの強化に取り組んでまいります。本日の会見でも、その取り組みの一つとして、国内有数の人流拠点である羽田空港において、本市のPRイベントを実施する事業についてご紹介させていただきます。先ほどのSHOEI様をはじめ、市内企業の皆様とも連携しながら、多くの方々に本市の魅力を発信し、認知度向上や交流人口の拡大につなげてまいりたいと考えております。これまで本市と接点のなかった方々にも、稲敷市という街を知っていただけるよう、新たな切り口での情報発信に取り組んでまいります。

さらに、今後も様々な事業やイベントを予定しており、8月22日には、稲敷の夏の風物詩である「いなしき夏まつり花火大会」の開催を予定しております。詳細につきましては、現在調整を進めているところでございますので、後日改めてご案内させていただきたいと考えておりますが、こうした事業を通して、市民の皆様が地域への関心や愛着を深めていただくとともに、市外の方々にも本市の魅力を広く発信してまいります。

最後になりますが、本市では、第3次総合計画に掲げる将来像「自然とともに豊かさ幸せを実感できるまち」の実現に向け、人口減少や少子高齢化といった課題に対応しながら、市民の皆様が安心して暮らし続けることのできるまちづくりを進めてまいります。引き続き、記者の皆様方には、本市の様々な情報発信等にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は、6月2日開会予定の令和8年第2回稲敷市議会定例会に提出予定の各議案等を中心に、このあとご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## ■質疑応答

### 【新たな切り口での情報発信について】

Q：説明のあった「羽田産直館」でのPRイベント以外にはどのような取組をする予定か。

A：著名人を起用したプロモーション電子書籍・紙冊子・動画作成、大手FMラジオ局を活用したPR放送を予定している。FMラジオについてはゴールデンウィーク前に1度実施し、市長の挨拶でも触れた「SHOEI HELMET PARK」や市内に9つあるゴルフ場など、春の休日に稲敷市を訪れてもらえるような放送を行った。

### 【鹿島アントラーズ特別企画展について】

Q：ホームタウン、フレンドリータウンがいくつもある中で、なぜ稲敷市

で開催できることになったのか。

A：昨年度、当市出身で鹿島アントラーズで取締役を務められた「関口一行氏」の講演会を開催している。そのご縁もあり、市から打診したところ実現に至った。

Q：展示されるシャーレは本物か、レプリカか。

A：本物を展示する。

**【議案第 49 号 太陽光発電設備の適正な設置及び管理に関する条例の制定について】**

Q：今回制定するに至ったきっかけは。

A：市内には大規模な太陽光発電施設が多く、また現在も新たな設置が続いている。これまでは茨城県のガイドラインに沿った対応を取ってきたが、市民からの不安の声などもあり、将来的に撤去・廃棄する費用等の確保等を盛り込んだ市独自の条例を定めることにした。

Q：事前協議や撤去時に向けた資金計画についてが稲敷市独自の内容か。

A：そのとおり。

Q：努力義務のようだが、具体的な罰則等については如何か。

A：規則等を定めて運用していく中で柔軟に改善等を図り、より良いものにしていきたい。

**【第 55 回ふな釣り大会について】**

Q：稲敷市周辺ではふな釣りが盛んなのか。

A：当市周辺の水域はふな釣り界では大変有名である。遠方から観光バスで訪れる愛好家団体も多い。この大会も市外からの参加者も多く、歴史ある大会となっている。

**【シン・いばらきメシ総選挙の代表グルメについて】**

Q：大会が盛り上がることはもちろんだが、商品の販売継続性などの可能性はあるか。

A：2年前の前大会で当市の代表グルメはスイーツ部門で特別賞である「カスミ賞」を獲得し、スーパーのカスミで販売することができた。しかし、それ以上の販路拡大は実現できなかった。そういった経験から、当然、今大会では当日だけでなく、その後の継続販売を視野に入れている。そのために昨年度から「食で稲敷市を元気にするプロジェクトチーム」を立ち上げ、今回のエントリーに至っている。

**【大手FMラジオ局を活用したPR放送について】**

Q：どこの局で行うのか。

A：ベイエフエムである。当市に訪れていただける可能性のある日帰り圏内であり、ふるさと納税などでの特産品購入層が居住する千葉・東京・埼玉エリアを広くカバーし、聴取率の高い局であることから選定した。

以上